

トスカ

作曲：ジャコモ フッチーニ

作曲年：1896年?1900年

初演：1900年1月14日ローマ コスタンチ劇場

主な登場人物

トスカ (ソプラノ) ・カヴァラドッシ (テナー)
スカルピア (バリトン) ・アンジェロッティ (バス)

第1幕

舞台は1800年のローマのとある聖堂。幕開き、革命家アンジェロッティ (Angelotti : バス/バリトン) が秘密警察から逃れて、聖堂内に隠れます。そこに番人 (Sagrestano : バス) とマリオ・カヴァラドッシ (Mario Cavaradossi : テノール) が登場。「妙なる美の調和よ」と恋人の歌姫・トスカ (Tosca : ソプラノ) への恋情を歌うカヴァラドッシ。堂内の聖母の絵に世俗の女の美を用いるなんて！と憤慨する番人が立ち去ると、アンジェロッティが旧知のカヴァラドッシに気付いて再会を喜びます。そこへカヴァラドッシを呼ぶトスカの声。隠れるアンジェロッティ。

今夜の逢い引きを誘うトスカ、アンジェロッティが気になって上の空のカヴァラドッシ。トスカは怪しみ、カヴァラドッシの絵のモデルに嫉妬しますが、結局は立ち去ります。

アンジェロッティが再度現れます。カヴァラドッシは自分の別宅へと誘い、いざという時の隠れ家、庭の井戸の横穴を教えます。大砲が鳴り、逃亡発覚かと逃げ出す二人。

番人と教会の人々が登場。革命の擁護者・神の敵、ナポレオンがイタリアから敗走の報を聞いて大喜びするところに、泣く子も黙る警察長官・スカルピア (Scarpia : バリトン) 登場。アンジェロッティを捜しますが既にもぬけの殻。しかし、番人の話からカヴァラドッシが逃がしたと感ずきます。そこにトスカ再び登場。スカルピアは言葉巧みに、カヴァラドッシが絵のモデルの女性と逢い引きしているとトスカに思わせます。嫉妬に狂ってカヴァラドッシの別宅へと向かうトスカ。スカルピアは部下に後を追わせ、「行け、トスカ！」と、折からの聖堂での礼拝に乗せて、己の悪巧みとトスカへの劣情を歌い上げる内に幕が下ります。

第2幕

ローマの宮殿、スカルピアの執務室。階下では戦勝記念の祝賀演奏会が開かれている。

スカルピアがトスカに手紙を書き、劣情を独白しているところに、部下のスポレッタ (Spoletta : テノール) が戻り、トスカの後を付けカヴァラドッシの別宅を見つけたが、アンジェロッティは行方不明と報告。スカルピアは連行されたカヴァラドッシを呼び入れます。シラを切るカヴァラドッシ。スカルピアの怒りが頂点に達したところに、手紙を読んだトスカ登場。カヴァラドッシはトスカに「さっき見たこと言うな」と釘を刺します。

別室で尋問＝拷問されるカヴァラドッシ。スカルピアはトスカに答えるよう迫ります。拷問に耐え、必死で喋らぬよう別室からトスカを止めるカヴァラドッシ。しかし、トスカはカヴァラドッシが殺されるのを恐れ、アンジェロッティの居場所を教えてしまいます。

カヴァラドッシを放すスカルピア。「話したのか？」とカヴァラドッシ。「いいえ」とトスカ。かぶさるように、勝ち誇って「庭の井戸だ！行け、スポレッタ！」とスカルピア。トスカを詰るカヴァラドッシ。そこへ知らせが来ます。戦勝は誤報、ナポレオン率いる革命フランス

が勝った、と。

それを聞き、カヴァラドッシは「勝利だ！勝利だ！」と場を弁えず狂喜します。怒ったスカルピア、死刑を命じ、連れて行かせます。後に残るはトスカとスカルピア。

「いくら？」と、カヴァラドッシを助ける代償を尋ねるトスカ。「幾らですって？」とすつとぼける、余裕のスカルピア。代償としてトスカの身体を求めます。烈しく憤るトスカ、カヴァラドッシの命を楯に脅すスカルピア。トスカは、「歌に生き、恋に生き」と、敬虔な私に何故このような試練を与えるのかと神に祈りますが、スカルピア相変わらず動じず。スポレッタが戻り、アンジェロッティは発見され自決した、カヴァラドッシの処刑も準備した、と報告。再度スカルピアは迫り、トスカは遂に同意します。

スカルピアはスポレッタに「銃殺だ。但し、見せかけだ...パルミエーリ伯爵の時のように...」と命じます。トスカは国外脱出の為旅券を求めます。書類を書くスカルピア。トスカはぶどう酒を飲もうとして、ナイフに気付き、手に取ります。書類を書き上げ、いよいよと迫るスカルピア。トスカは深々とナイフを突き立て、「これがトスカの接吻よ！」。苦しんで死ぬスカルピア。呪いの言葉を浴びせていたトスカ、「今は許すわ」とつぶやき、旅券を取り、遺体の周りに蠟燭を立て、十字架を乗せてやり、立ち去ります。

第3幕

ローマのサンタンジェロ城の上。夜。何処からか羊飼いの歌声が聞こえます。

カヴァラドッシが連行されてきます。指輪を看守に渡し、遺書を書こうとします。が、感極まって、「星は光りぬ」と、トスカとの逢い引きの夜を想い、要するに「死にたくない」と泣き崩れます。

そこへトスカ登場、再会を喜ぶ二人。トスカは旅券を見せ、スカルピアを殺したこと、銃殺は見せかけだから死んだように振る舞うこと、などを話します。愛に満ちた二重唱を延々と繰り広げる二人。

看守が呼びに来ます。「私が呼ぶまで起きちゃダメよ」とトスカ。屋上で処刑の準備が進められるのをいらいらしながら物陰で見守るトスカ。いよいよ銃殺。銃声と共に倒れるカヴァラドッシ。「見事よ！」とトスカ。刑吏らが立ち去り、誰もいなくなったのを見計らって「さあ行きましょ」とトスカ。カヴァラドッシ、答えず、動かず。案に相違して、カヴァラドッシは銃殺されていたのでした。「死んでる！マリオ！」と泣き叫ぶトスカ。

漸くスカルピアの死体に気付き、再び上がってきてトスカを捕らえようとするスポレッタら。トスカは彼等を逃れ、最後に「スカルピア、神の御前で！」と叫び、サンタンジェロ城の上から身を投げます。「星は光りぬ」のメロディが強奏される内に、幕。